

第38回

うつのみやこども賞だより

令和3年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『サステナブル・ビーチ』

小手鞠 るい／作 (さ・え・ら書房)



令和3年7月4日

～読んだ本の感想より～

- 汚染や環境問題などでどんなことが起こっているのか知ることができました。自然についてかかれていてとてもおもしろかったです。
- ピカケちゃんがけがをした時には、この後どうなるのかドキドキしましたが、治ってよかったです。
- 七海が白くまの写真を見た場面はとても悲しかったけど、七海がアクションを起こした場面はとても気持ちがスッキリした。
- おじいさんや女の子との出会いでエコについて考えるようになりました。
- 地球環境についてよく考えられた。海のプラスチックの問題は世界でもすごく話題になっていて、自由研究でそこを出してくる七海のごさを思い知った。

『サイコーの通知表』

工藤 純子／著 (講談社)

- ぼくも、先生に通知表をつけてみたいなと思いました。
- 先生や生徒の関係や、立場が不公平なことは私も少しいやだなと思うことがたくさんあったので、主人公達の活動に少しあこがれました。
- たんにんの先生に、クラスみんなでサイコーの通知表を作るところがおもしろかった。
- 最初に朝陽が「先生の通知表を作ろうよ」と言っていて、よく勇気を出して言えたなと思った。
- 先生のおさを通知表で伝えるのもすごいと思うのに、それだけじゃ足りないと思って班ごとに発表しようと思案したりするのは、ぼくの学校ではできないと思うからいいクラスだと思った。

『Mガールズ』

濱野 京子／作 (静山社)

- 今のコロナ禍について言っているみたいでとてもきょうかんした。
- 今みたいにコロナ禍でも、好きなことをやりつづけるのはいいことだと思った。
- 今の世界と似たような設定で、本の方は現実よりもひどい状況なので、いずれこうならないか不安になった。
- この物語は、今のコロナ禍の状態そのものなので、「ああそうだよ」というような親近感を覚えました。Mガールズの5人はその状態にもめげずにおどっていたのでかっこいいなと思いました。

『わたしのあのこのわたし』

岩瀬 成子／著 (PHP研究所)

- 初めはけんかすることもあったけれど読むにつれてもちざわさん(モチ)と「わたし」のゆうじょうがふかまっていることが分かった。
- 秋のレコードがモチの弟に傷つけられたところが一番ドキドキした。
- 心の中で思っていることだけじゃ気持ちは伝わらないと思って手紙を書くはっそうがおもしろかったです。
- 二人の視点からの物語はあまりないので、二人の気持ちが分かりやすかった。香衣と秋がまた友だちになれたとき、よかったと思った。